



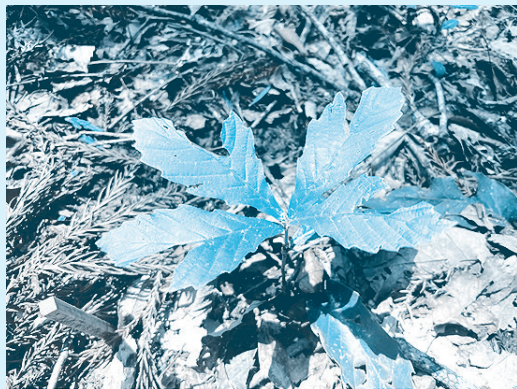
## 森林レンジャーがゆく (129)

### 「どんぐり、不作」

毎年8月にどんぐりの結実状況を調査しています。この調査は、ツキノワグマ（以下「クマ」という）の秋期（9～11月）の人里へ出没する可能性の大小を評価し、地域の方への注意喚起と自然との共存に役立てることを目的としています。秋期のクマは、越冬や出産のために栄養を蓄えなければならず、どんぐりの結実状況が悪いと標高の低いところまで行動範囲を広げることから特に注意が必要とされています。しかし、様々な要因で豊凶の変動があるどんぐりの結実状況は予測できないため、毎年全国各地で調査が行われています。

どんぐりはブナ科の果実の総称で、調査ではブナ、ミズナラ、コナラ、ヤマグリの4種の結実状況を調べています。市の西側にある山地での調査の結果、今年是不作ということが分かりました。中でも、クマが通常生息している標高の高い山地に自生するミズナラに、カシノナガキクイムシを原因とするナラ枯れが拡大していました。調査を開始した2013年から見続けてきた大木も、残念ながら枯れてしまいました。枯木が目立つ森を見ると物悲しくなりますが、その森林内に目を向けると、多様な樹種に混じってブナ科の小～中木、場所によって僅かではありますが、暗い林床でじっと耐えるように育つ稚樹も見られ、次世代が粛々とスタンバイしています。しかし、どんぐりは昆虫類、鳥類、哺乳類などの野生動物に利用されており、結実状況は多様な野生動物に影響を与えるため、今後、注意深く見守っていく必要があると感じています。

今年のどんぐりは不作であり、食べ物を求めて人里に出てくるクマが多くなる可能性があります。過去には、クマを人里に誘引した物として栽培品種のクリやカキ、キウイフルーツ、生ごみ、養蜂用の巣箱、放置された農作物、果実が入っていた空き箱などが報告されています。そのため、誘引物を取り除くことが野生動物と人の不要な接触を減らし、地域の暮らしを守ることにもつながりますので今年もご協力をお願いいたします。（加瀬澤）



森林内に育つミズナラの稚樹